

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名)

事業所番号	0691600134		
法人名	社会福祉法人 みらい		
事業所名	グループホーム きらめきの里		
所在地	天童市大字山口4540-1		
自己評価作成日	平成30年 2月 20日	開設年月日	平成29年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所して間もなく1年になるが、グループホームを経験している職員が少なく、8月から自己評価をユニット会議で少しずつ始めていった。全部終了するまで7か月経過したが1項目ずつ職員みんなで話し合うことでグループホームがどういふものか理解できたと思う。パイルのように思っている。グループホームに入居しても社会参加は重要であり全員で選挙に出かけた。自分で書けない入居者は手差しで意思を表し、全員が書けたことは驚きだった。出来ないし決めつけず事前に候補者のプロフィールをコピーして見てもらってから出かけたのが良かったと思う。楽しみごとの1つである入浴は全員1日置きに個浴やパンジー浴等身体能力に合わせた入浴方法で行い清潔を保持した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開所して日も浅いが、管理者やベテラン職員の努力で安定ししかも今後の課題を意識しながら支援に取り組んでいる。事業所の建物は、広く適度の明るさで、雑音もなく、トイレも多く、温度湿度にも配慮され、床も柔らかく感じられるなど、利用者目線に立ち安全で快適な生活ができるように設けられている。その中では、ベテラン職員を中心にグループホームの特性や一人ひとりの希望要望を汲み取り、学び合いながら詳しいケース記録を残し、利用者ができることを活かし、目標を立てて支援している。また、法人の同一敷地内施設や他の事業所と連携・協力しながらケアの質の向上を図り、安心感を醸成している。そして、先発の施設と協力して地域の方々にも積極的に溶け込みながら、相互交流の拡大に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成30年 3月15日	評価結果決定日	平成 30年 4月 5日

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人研修で必ず理念について施設長から講義を受けている。法人理念はホーム内に掲示している。また、ユニット会議でもっと掘り下げて話し合う場を設けたい。	「笑顔で自信を持って」「良い介護で地域に貢献」という法人理念を居間等に掲示し、笑顔を大切にしながら、利用者の日頃の様子を良く観察して生活を支援している。職員は理念を良く理解し、自信を持って支援を実践している。管理者は、職員間で、理念の掘り下げを話し合いたいと考えている。		法人理念に基づき、グループホームとしての具体的な方針や目標を職員全員で話し合い、共有しながら実践につなげられるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理容室の利用、地域の夏祭りの参加や小学校の生徒が来て歌を披露してくれたり地域との交流を行っている。	事業所は設置されて1年であるが、前年に設置された同法人他施設と協力して、地域と多くの交流がある。事業所から地区の夏祭りや公民館主催の「居場所づくりカフェ」に参加したり、一方地域の方から、法人主催「認知症サポーター養成講座」に参加して頂いたり、小学生から合唱の披露を受けたりしている。また、地域の方から、果物や、薪の材料となる果樹の伐採木を頂戴したりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で、認知症サポーター養成講座を開催し、たくさんの方が参加して下さった。天童市が開催している認知症カフェに入居者、職員が参加した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで4回開催したが、家族や地区の方から意見を申し出てもらい、よりよいサービスの向上に活かしている。	市職員、区長、民生委員、包括職員、家族(交代で)と職員とで、概ね2ヶ月に1回開催している。事業所から運営や活動状況の報告を行い、委員より意見や情報を頂いている。委員からは特に、地域の行事やイベントなどの情報を得ており、それをサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回市職員が参加してくださったり、困り事には相談し解決に至る事ができた。介護相談員が12月から毎月訪問してくださり、グループホームの活動内容や現状を知って頂くと共に、意見を日々のケアに活かしている。認知症カフェにも数回参加し、交流を図った。	運営推進会議に、毎回市職員から参加してもらい、情報を頂いたり、教えてもらったり、意見交換したりしている。また、介護相談員から毎月訪問を受けている。一方、市の要請に応じ認知症カフェにも積極的に参加し交流するなど、協力関係を緊密にしている。		
6	(5)	代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	開設して間もなく、自己評価を全員で取り組み、グループホームについて経験がない職員も一項目ずつ取り組む事により自分の介護の振り返りやグループホームの特徴等や身体拘束をしないケアについて話し合う事ができた。また身体拘束について内部研修を行っている。不穏時外出希望があった際は一緒に寄り添う。また落ち着かせるような役割活動等の取り組みを行っている。夜間ベッドからの立ち上がりの時はセンサーマットを使用し、転倒防止に努めている。	拘束や虐待等について法人主催の研修会で学ぶとともに、ユニット会議で防止について具体的に学んでいる。今回、自己評価の際にも実践的な対応策について話し合った。開設して日が浅いが、経験豊富な職員のアドバイスによって知識も多くなり、また、利用者一人ひとりに対する理解が深くなってきている。外出したがる利用者への対応に関しても、見守りや寄り添うことで拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の全員参加の会議や研修を通して防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の全員参加の会議で話し合い、学ぶ機会を設けている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に職員が説明し、家族の疑問や不安には丁寧に応え理解、納得を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話した時や面会時は本人の状況を報告し家族とのコミュニケーションを図り信頼関係を構築している。また運営推進会議に参加して下さった時に、意見を聞いて反映している。	面会や通院支援、電話等の際に意見を聴くように努めている。家族の面会が多い。また、運営推進会議には家族が3人程度参加してくれるので、その際も意見を頂いている。管理者は家族の意見要望を取り入れ、活かすため、一層環境の整備に努めていきたいと考えている。	家族は事業所に対して意見や要望を表しにくいことを考慮し、家族の参加する行事を多く計画するなど様々な対応を検討し、さらに家族が話しやすい環境づくりに尽力されることを期待したい。
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全員での会議を行い職員の考えを拾い上げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の確保や休憩時間がきちんと取れるよう環境が整っており、職員の労働意欲の向上に努めている。また、アンケートを取り意見・要望を聞くようしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修で新人研修は数日間、多岐にわたり座学の研修を設けている。その他の職員も吐物処理やAED・心肺蘇生法、虐待防止の研修等を行っている。	月例ユニット会議の際に行う内部研修のほか、設置法人全体の研修や、福祉団体、行政主催の研修に参加させながら、職員の資質向上を図っている。内部研修では、ベテラン職員の経験を踏まえた実践的な指導に力を入れている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会、村山地区ブロック会の交換研修や、新人研修、計画作成担当者研修に参加し、サービスの向上に取り組んでいる。	県グループホーム連絡協議会及び同村山支部などの研修や交換実習に参加させたり、受け入れたりしながら、職員の情報交換やネットワーク形成を促進し、それをサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に情報を得、職員で共有するとともに、入居後も家族や本人に興味や好きな事、習慣を聞き、職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約等の説明時、家族に不安な事、要望等を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、オムツ支援等、必要に応じて声掛けしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おしぼりたたみ、モップかけなどで役割活動をしていただくことに対して感謝の言葉を述べ、必要としている方であること等感じてもらっている。食事作りでは主婦としての経験を活かし職員に教える場もある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、家族に近況報告し、居室で本人とゆっくり話し合う場を設ける		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から通っていた美容室に家族に連れて行ってもらったり、施設内の馴染みの利用者様に会いにいったり、来てもらったりして、交流している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合う合わない利用者を把握しつつ席を決め、レクリエーションや役割活動を通して、協力しあうような関係に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当なし。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時一対一の関係の時に本人の本音を聞きだしているが、困難な場合は共感し、説明する。	日頃から、会話やしぐさ、表情から思いや意向をくみ取るようにしている。特に入浴の際には本音を聞き出すなど、一人ひとりの思いを把握するように努めている。ケース記録や業務日誌は詳細に記載され、新しい気づきは朱書きされ、本人の思いを話し合いアセスメントに活用している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報を前の利用施設から得て、共有している。入居後は、ご本人やご家族への聞き取りにより、情報を得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体力、能力に応じて、昼寝等一人一人に合わせている。また、できる事できない事の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に要望を聞き、それを介護計画書に反映している。意見が言えない入居者には笑顔が多いことを捜しケアプランに取り組んでいる。	「介護指示書」には、利用者の現状が詳しく記載されている。それを踏まえ、毎月「ユニット会議」で、率直な意見やアイデアを出し合いながら、一人ひとりのモニタリングとアセスメントが行われている。それを基に介護計画書は6か月に1回、家族の意見を入れて、「利用者の笑顔と役割の多い」現状に即した計画が作成されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録に残し、介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が理容室に来てもらったり、出かけたりしている。地域の夏祭りにも参加している。地域から果物を頂いたりしている。地区の公民館の「居場所作り」に参加し楽しんだ。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は主治医にGHの様子を伝えコミュニケーションをとっている。歯科往診の時も口腔ケア、体操などの様子を伝える。	かかりつけ医は本人や家族の希望を取り入れ、受診は通常は家族付添で対応している。月に2回、協力医の往診も受けることができる。受診に際しては、利用者の健康状況を記載したメモを持参し、医師の適切な診察が受けられるように努めている。また、2週間に1回、歯科医の往診を受けることができるようにし、家族の理解と協力が得られるような関係を築いている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が定期的に来ており、その際、些細な事でも相談し対応だけでなく受診についても相談している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時今度の対応について担当医師から話を聞き、退院後の生活について相談した。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方針について家族に説明している。開所したばかりで、対象者はまだいない。	利用開始時に、重度化した場合の対応について、家族・事業所の連携関係、医療機関・福祉施設との協力関係について十分な説明を行い、同意を得ている。重度化した場合には、その都度、家族、関係者と話し合い共通の認識を持ちながら対応している。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAEDの内部研修を行い、急変や事故、夜間等の救急対応に備えているが、まだ経験したことがない職員がほとんどであり、実際動けるか不安である。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の訓練や防災訓練を行っているが、新人職員が多く、災害が発生したときに動けるか不安である。	年2回、法人関連施設・事業所全体で、火災や水害を想定した総合的な訓練を実施している。その際は、消防署の指導や、地区の協力を得られている。	今後は、地域との防災協力体制を築きながら、さらに様々な、具体的な訓練を実施することが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に合わせた言葉使いに注意をしながら方言を交え馴染みやすいようにしている。介助するときは、なるべく尊敬やプライバシーを損ねないように努めている。ユニット会議時も職員間で話し合いを行っている。丁寧な言葉では距離を感じるし、方言で気軽な言葉になってしまうとどんどん崩れていくため永遠のテーマである。	利用者は人生の先輩であるということ意識しながら、特に声掛けを中心に、人格を尊重し、プライバシーを損ねることがないように努めている。ユニット会議において、声掛けや関わりに付いて気になる点を話し合っている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本音の言えるような環境づくり(入浴時など一对一の時)。自己決定が難しい方には選択肢を設け、自己決定ができるような質問の仕方をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事作りは週一回昼のみであるため、一日の流れはゆったりとしている。毎日の過ごし方について入居者にその都度聞いて行ってはいるがレクリエーション等は楽しんで取り組んでいる姿が見られている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪、毛染め、パーマなど本人の要望に対応している。また、おしゃれが好きな入居者にはケアプランに挙げて支援している。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは週一回昼のみであるが、食材切りや盛り付け、食器洗い、食器拭き、片付けなどは利用者と一緒に力を合わせて行っている。	楽しい食事となるよう、献立は特に季節感に配慮されている。昼食はごはん以外のメニューもある。春には雑炊、夏には流しソーメン、秋には栗ご飯、冬には「ひっぱりうどん」があったり、家庭的である。地区内で生産された戴き物の果物をデザートにすることも多い。干し柿作りも楽しんでいる。施設内で調理する際を含め、盛り付け・食器洗い等利用者ができるものについては、職員と一緒に合わせて行われている。昼食の際、利用者間に会話もある。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が考えた栄養バランスのとれた食事の摂取量や水分量を記録し、全量摂取できるよう声掛けを行っている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしている。また希望者は往診で定期的な口腔ケアを行っている。また口腔体操、嚥下体操		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用することで排泄リズムを把握し自尊心を傷つけないよう声掛け・誘導している。	排泄記録を基に一人ひとりについての認識を共有して、「トイレで、自分で」排泄できるように声掛けと誘導を行っている。一人ひとりに合ったリハビリやパットの使用などによって、失禁が多かった人も自立度が高くなった例もある。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身近な取り組みとして毎日体操や水分補給を促している。家族からヨーグルトを提供してもらっている利用者もいる。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は一日置きに、一人ずつ入っている。バンジー浴や個浴など利用者の身体能力に合わせた入浴方法で安全に入浴できるようにしている。入浴時は職員と一対一で会話ができるよう支援している。お湯の温度などは利用者の希望に合わせてられるよう努めている。	利用者の希望に沿い、概ね一日おきに入浴を楽しんでもらっている。利用者の身体機能に応じて、個浴・バンジー浴などで、安全に楽しい入浴を支援している。また、そのリラックスの中で、利用者の希望・本音を聞き出すように努めている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湯たんぼや電気毛布を一人一人の状況に合わせて使用し、安眠につなげている。楽しみにしている番組がある時は、テレビを見てから就寝するなど、楽しみごとを優先して対応している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情が誰でも見られるように、薬情の一覧を作成している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はして頂くをモットーに、全員にそれぞれ役割を持っていただき、していただいた事に対し、称賛と感謝の言葉を述べる事で、意欲につながっている。気分転換に散歩等を支援している。(冬期間は行っていない)			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毛染めやパーマかけ等、本人に要望があった場合は外出支援している。蛍鑑賞やもみじ狩りなど、季節感のあるイベント的な外出はあるが、希望を汲取るような入居者一人一人に合わせた外出を心掛けていきたい。	日頃から敷地や周辺の散歩を行っている。また、高原の散策、蛍観賞、足湯、紅葉狩りなど、季節折々にドライブ等の行事を組みながら外出の機会を創出している。さらに、家族の協力を得ながら法事に出かけたりしている。管理者は一人ひとりのその日の希望に沿った外出を支援したい意向である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>施設の方針で現金を持たないようにしている。必要なものは、立替払いになっている。</p>		
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人自らかけようとし、支援はしたものの、繋がらなかった。</p>		
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度、湿度に配慮し、過ごしやすい環境作りにつけている。起床時はカーテンを開けるなど、生活の流れがわかるようにしている。テレビはつけっ放しにせず、食事時は食事に集中するようにしている。季節感のある作品を入居者と一緒に作成し季節感を感じてもらっている。</p>	<p>建物は全体に広く、適度な明るさがあり、雑音がなく、温度湿度の管理もなされている。床の材料に柔らかさがあり、安全にも配慮されている。トイレは2部屋毎に1か所が設置されている。居間にはテーブルやソファが置かれテレビを見るなど思い思いに過ごすことができる。季節の生花や、掲示された利用者の作品から季節感を採り入れており、壁面には思い出の写真が掲示されている。清掃も行き届き、居心地良く過ごせるよう配慮されている。</p>	
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自分の定番の席があるものの、仲の良いもの同士が座ったり、気分によってはソファに座る等、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。車椅子利用の方にももっと配慮していきたい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具とベッドがあるが、家から持ってきたブティックハンガーや、写真、馴染みの物を持って来てもらった。個人的に差があり、家族に働きかけをしていきたい。	居室には備え付けのベッドがあり、また、利用者が使い慣れた家具や電気製品が持ち込まれている。壁面や枕元には、家族との写真などが飾られている。清潔で整理もされ、本人が居心地良く過ごせるような空間となっている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の壁にはすべて手すりがついている。床も転倒しても衝撃が少ない材質でできている。トイレは車椅子や歩行器で入れるトイレもあれば、一人で入って転倒しそうになった時すぐ壁や手すりにつかまれるような狭さだったり、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。			